

公益財団法人関西生産性本部会長・一般社団法人凌霜会前理事長 大坪 清氏 弔辞

公益財団法人 関西生産性本部の会長をつとめております、レンゴーの大坪でございます。

本日、ここに、高校、大学の後輩である加護野忠男先生にお別れのご挨拶を申し上げなければならないことは、人生の無常を感じずるに余りある悲しみでございます。

わが国がいろいろな点で重大な岐路に立たされている今、いつも先覚的なメッセージを発信し続けてこられた加護野先生を失ったことは、誠に痛恨の極みであります。

加護野先生には、当本部が財団法人の時代から役員や経営開発副委員長、総務政策副委員長、KPC マネジメントスクール経営戦略コースのメインコーディネータを、さらに公益財団法人に衣替えした後も理事ならびに総務政策副委員長を今日までおつとめいただいております。また、2001 年の関西経営品質協議会設立や 2004 年の関西経営品質賞創設の際には先頭に立ちご指導をいただき、関西経営品質協議会の企画実践委員長、関西経営品質賞の判定委員長としてご指導をいただきました。その他、加護野先生に関与いただいた活動も非常に多く、また、加護野人脈と申しますか、多くの先生方に当本部の活動に参加いただきました。加護野先生は当本部にとりましてまさしく大恩人であります。

加護野先生に関係いただいた当本部のこれまでの数多い活動の中から 3 つの活動をご紹介します、感謝の意を表したいと思います。

一つは、『和英対訳 ミドルが書いた日本の経営』の出版です。我が国企業の経営が内外から賞賛されていた 1980 年代、加護野先生をリーダーとする専門委員会を作り、いわゆる日本的経営を説明するハンドブックを日本経済新聞社から出版しました。その後、アラビア語、セルビア語などにも翻訳されるなど、大きな反響がございました。

二つ目は、「KPC マネジメントスクール」の創設です。これからの組織を支えていく有為な人材を育成することを目的に、当本部創立 40 周年の翌年、1997 年に、本格的なビジネススクールのはしりとして「KPC マネジメントスクール」を開講しました。その中のコースの一つに「経営戦略コース」があり、加護野先生には開講以来メインのコーディネーターを昨年までつとめていただき、スクールの中でも人気コースとなり、受講生を毎年厳しく指導いただきました。

そして、三つ目が、関西経営品質協議会設立と関西経営品質賞創設です。

経営学者である加護野先生らしい言葉として、関西経営品質賞設立の時の加護野先生のメッセージを紹介します。

「関西経営品質賞創設の目的は、関西を良くしていくことであり、関西で良い経営をされている企業、組織を表彰させていただく。そもそも経営とは何か。経営学者として最も返答に

困る設問だが、私は“良いことを上手にすること”が経営のエッセンスであると答えている」。

私は、加護野先生が、わが国で進行する“株主資本主義”の流れに警告を発し、「短期の利益よりも長期の成長を重視する日本型経営に自信を持て」と日本の経営者にエールを送り続けてこられたことに大いに共感してまいりました。

先生はおだやかな方ですが、時には激しい主張を展開され、証券取引所が東西に分かれていた時に、関西の企業は、株主資本主義を進める東証から脱退し、顧客や社員を大切にする経営を唱えて大証に結集せよと、生産性本部のある会議で主張されました。

先に弔辞を述べられた伊丹先生、石井先生、これから述べられるとお聞きしている中内社長、山田先生、吉村先生など、人本主義経営を実践し、唱える方々が沢山おられます。加護野先生の遺志を受け継ぎ、さらに声を大きくし、日本の企業の成長と経済の発展、国民の幸せのために、邁進してまいりたいと思います。

加護野先生、心残りではありますが、これでお別れといたします。

どうぞ安らかに眠りください。